

第七章

医療の谷間を

埋めるために



ついに自分で病院を作ることを決意した弘之。

とはいって、病院は建物を建てるだけで簡単にできるものではありません。

完成までにはたくさんの苦労があり、多くの人の協力があつて実現することができるのです。



よーし！がんばるぞー！



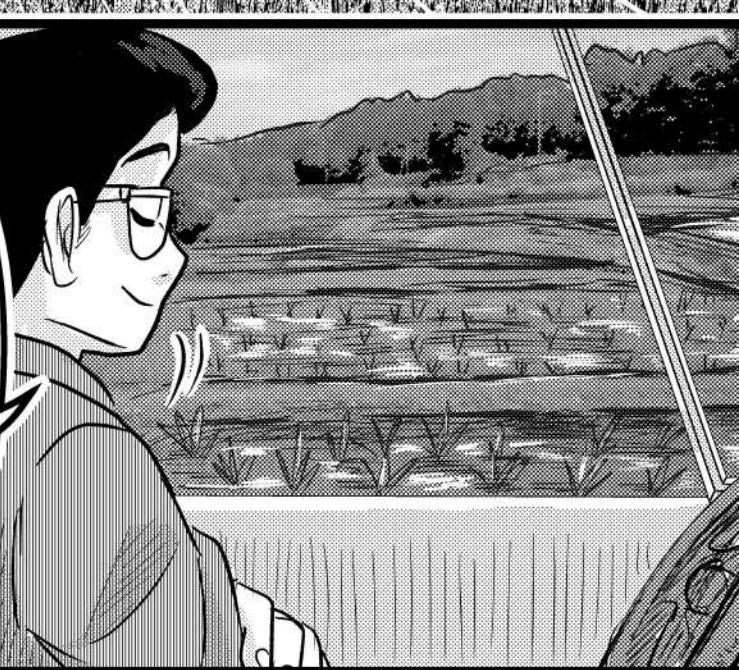
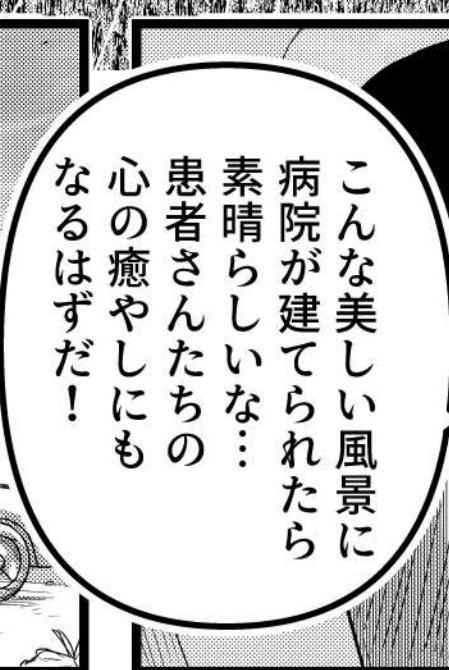
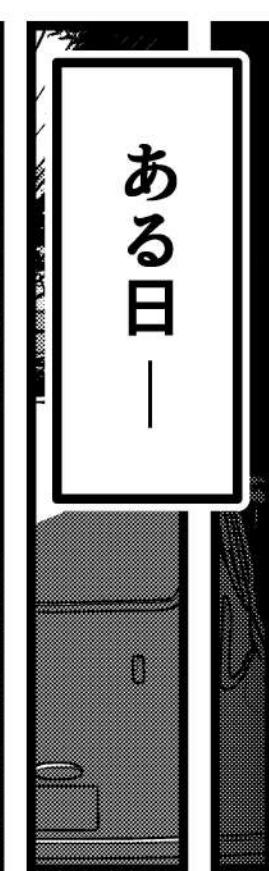
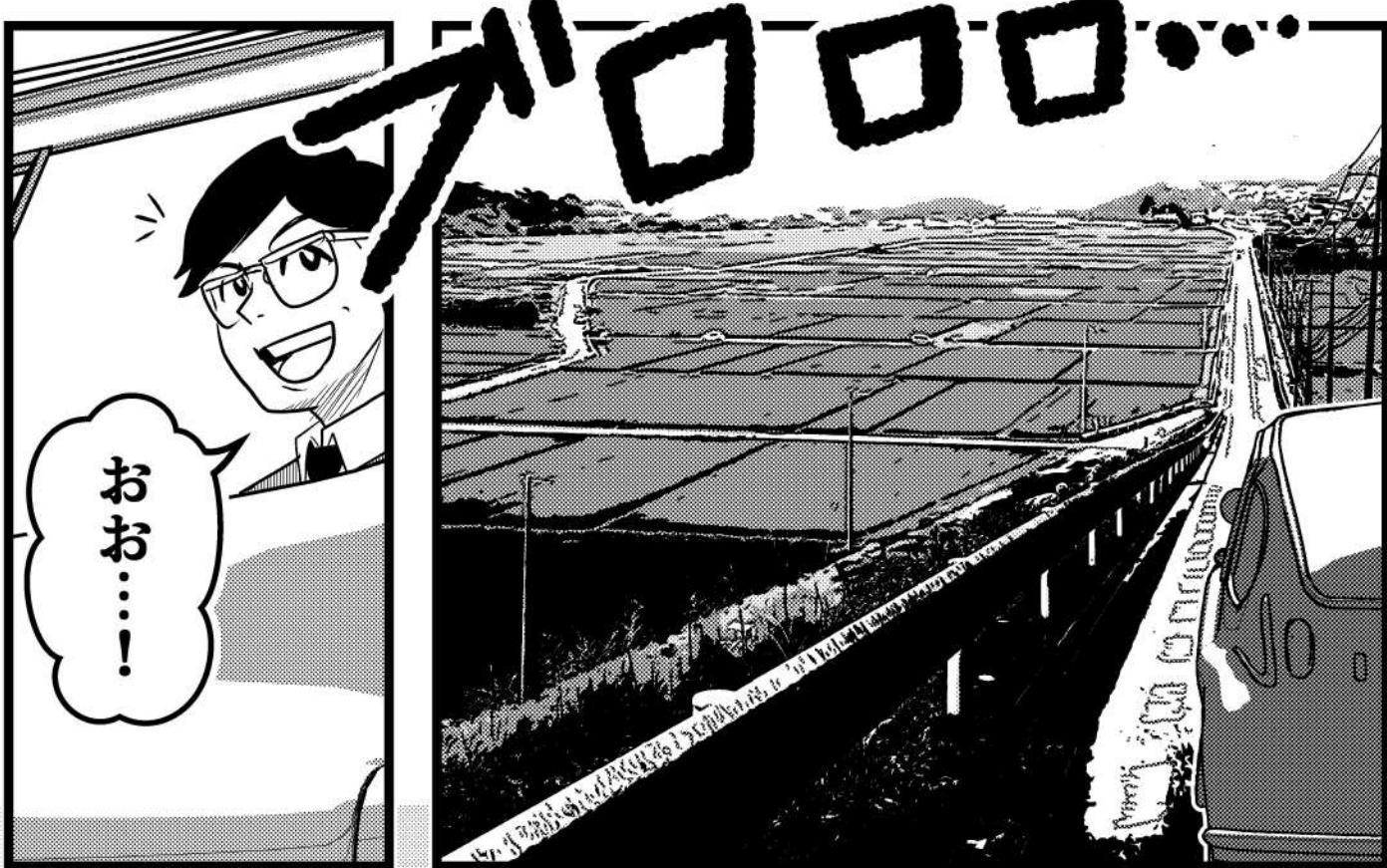
「街の風が吹き抜け
素晴らしい景色が広がる
そんなみんなが行きたくなる
場所を選ばなくてはな！」

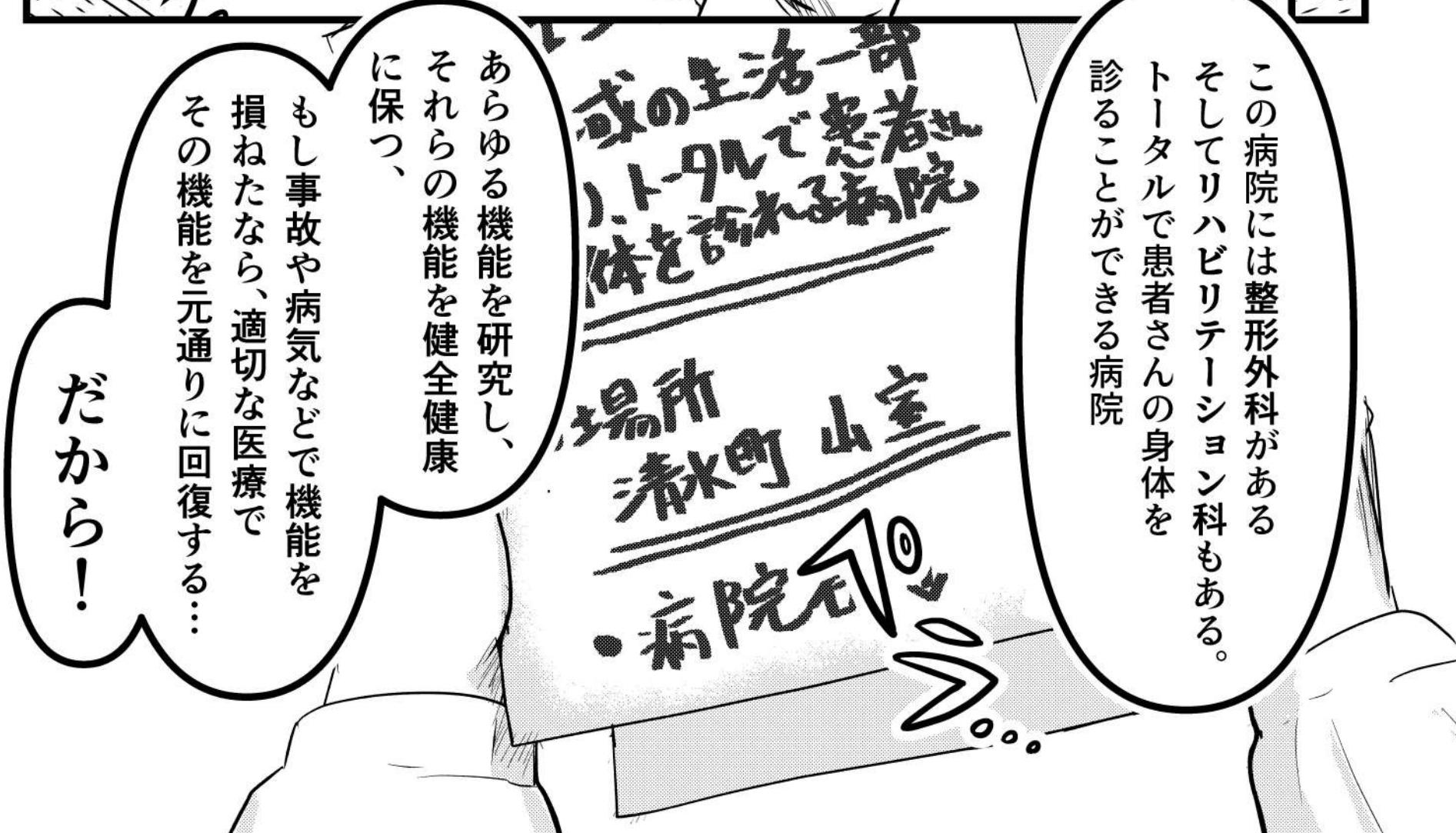
次は場所…だよなあ
病院だと連想される
クレゾール（石鹼水）の
匂いが常にする病院
にはしたくないから…



コンセプトは
「地域の一部となり、
みんなに愛される病院」
ーっと







くまもと きのう いがく けんきゅうじょ ふぞく びょういん

熊本機能医学研究所附属病院



熊本機能医学 研究所 附属病院



くまもと きのう びょういん

熊本機能病院

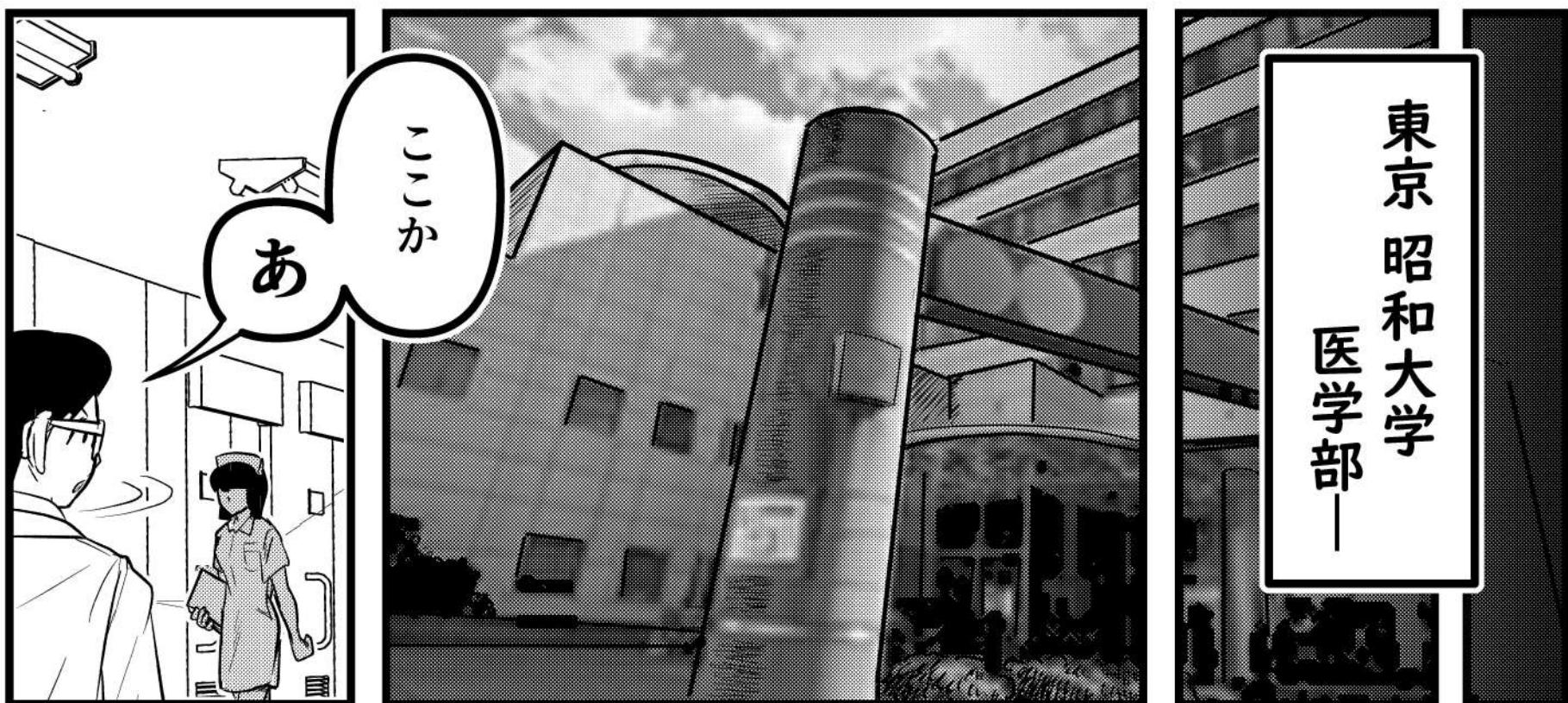
この病院の名前は…
「熊本機能病院」
だ!!

うん。違和感なし!
これだ!
これしかない!

昭和56年（一九八一年）
春

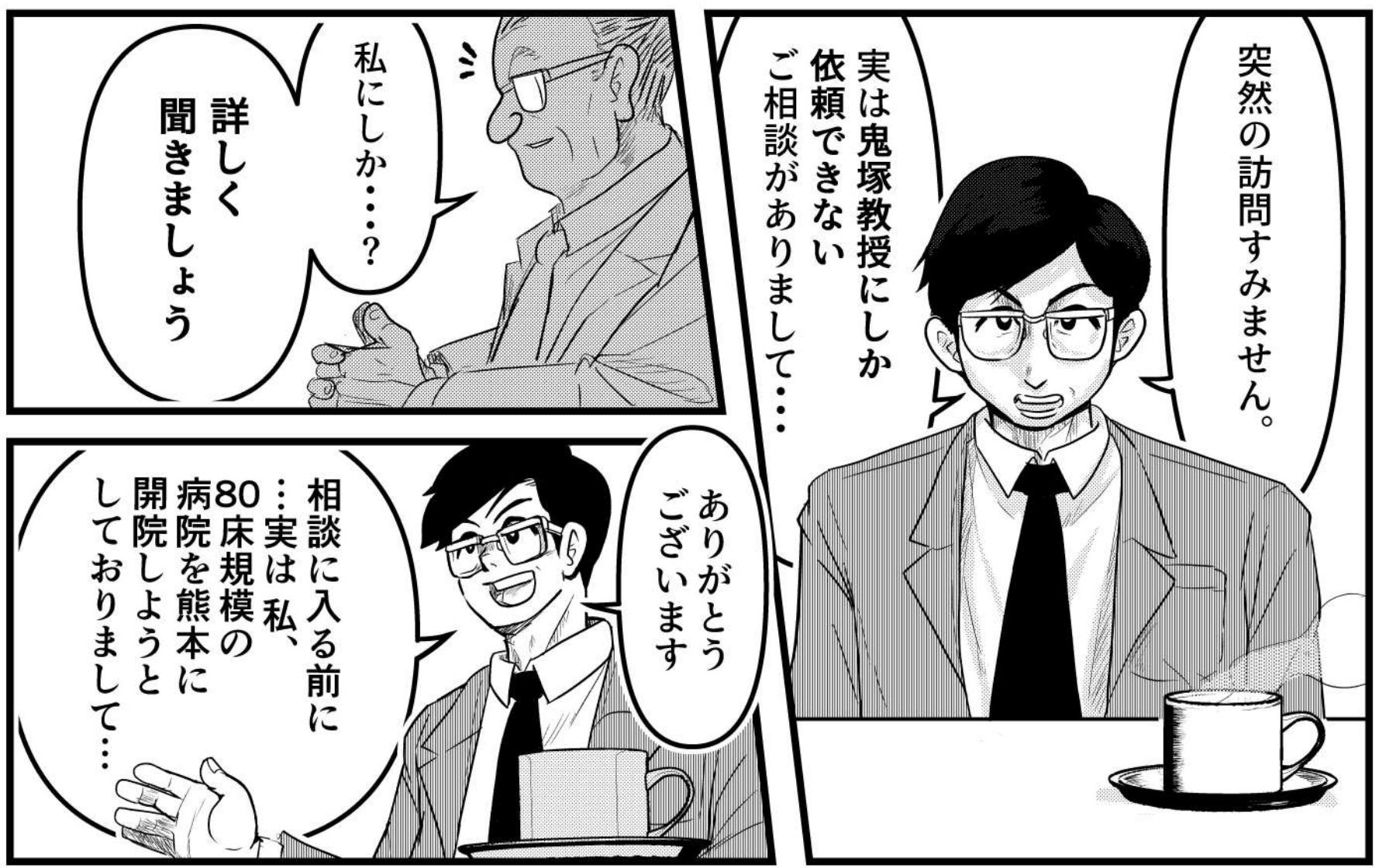
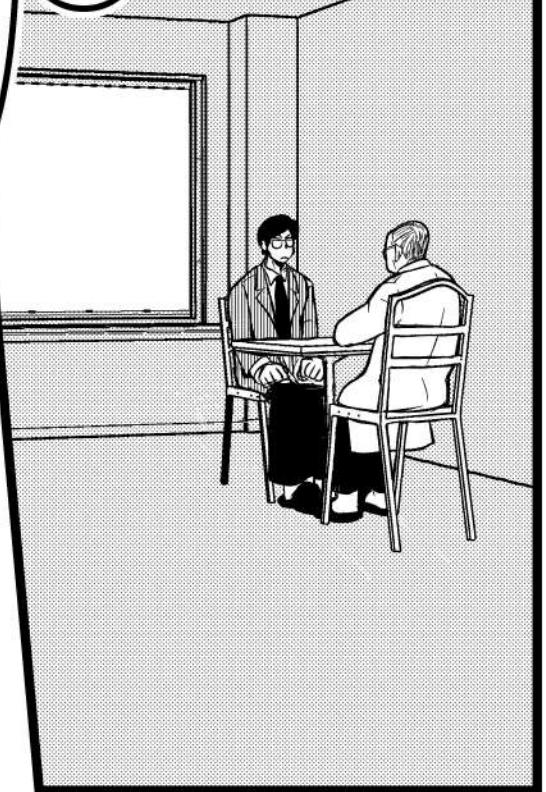
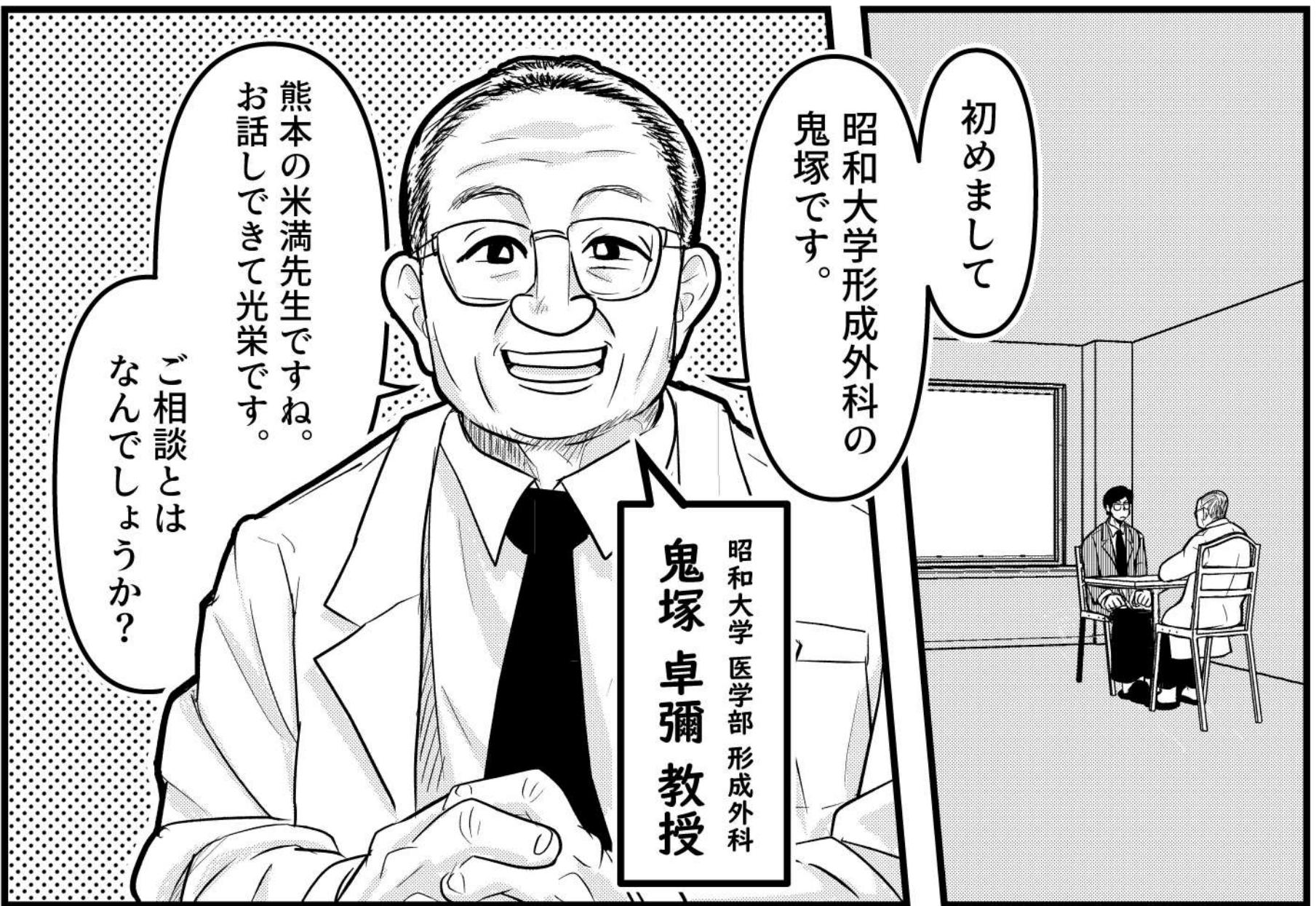
「熊本機能病院」と名前に
決まりましたが、病院自体は
建築途中だったこの年

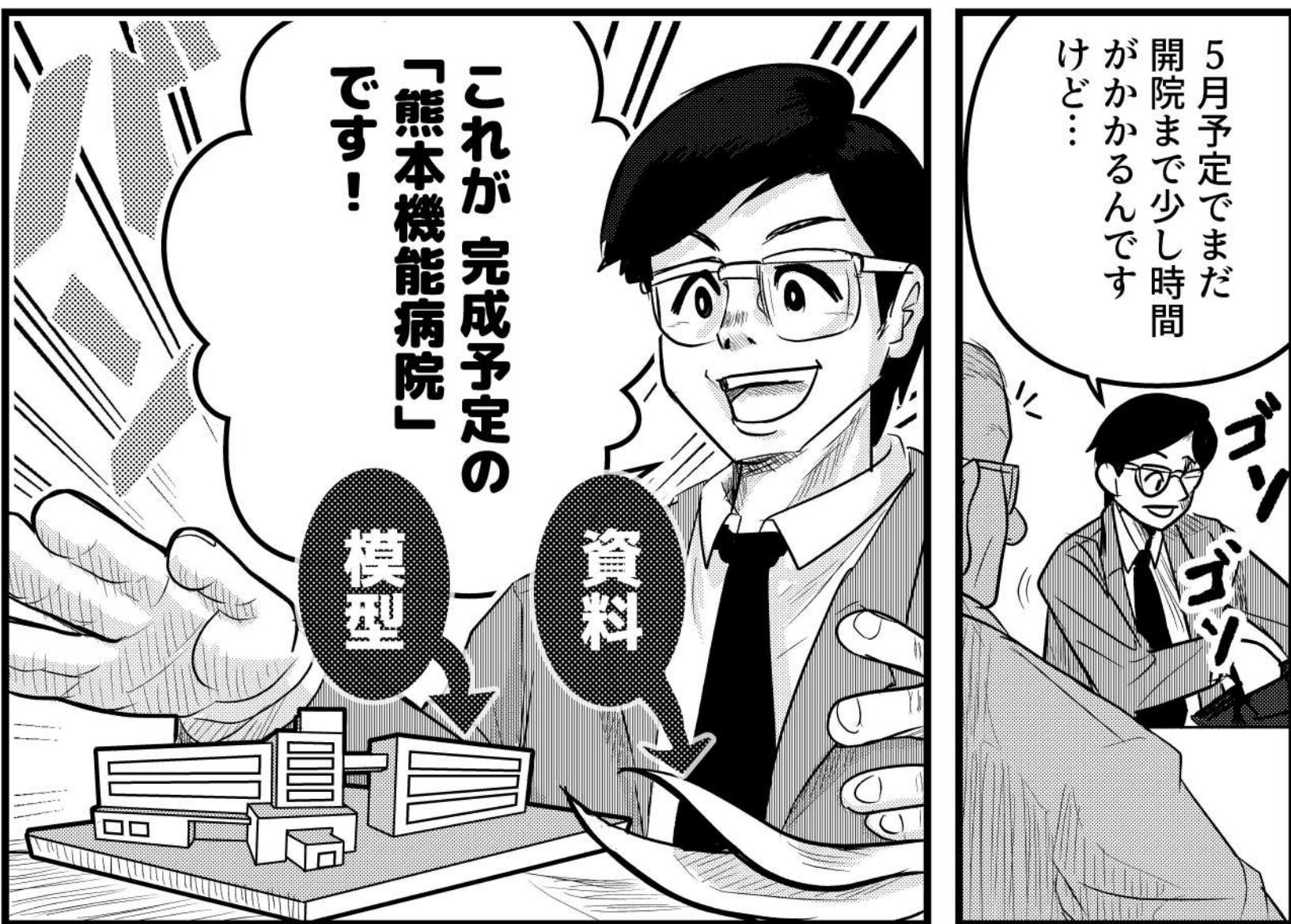
今でも続く協力関係が
生まれるきっかけも
訪れます。



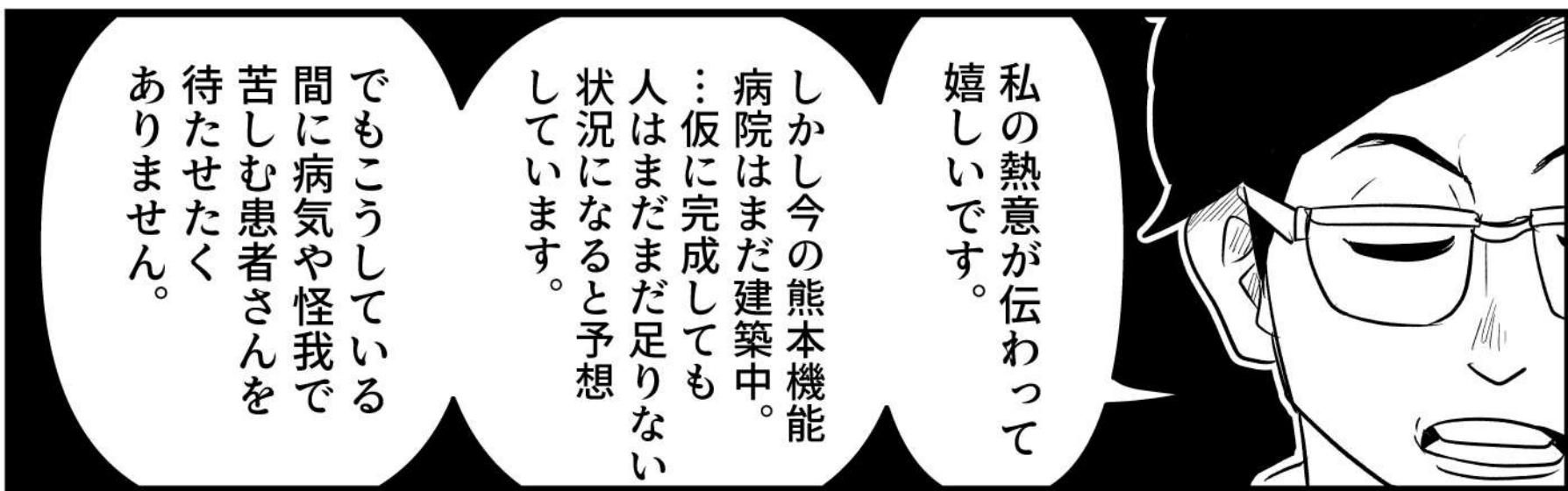
形成外科の鬼塚教授
にお会いしたい
のですが……

あの
すみません。



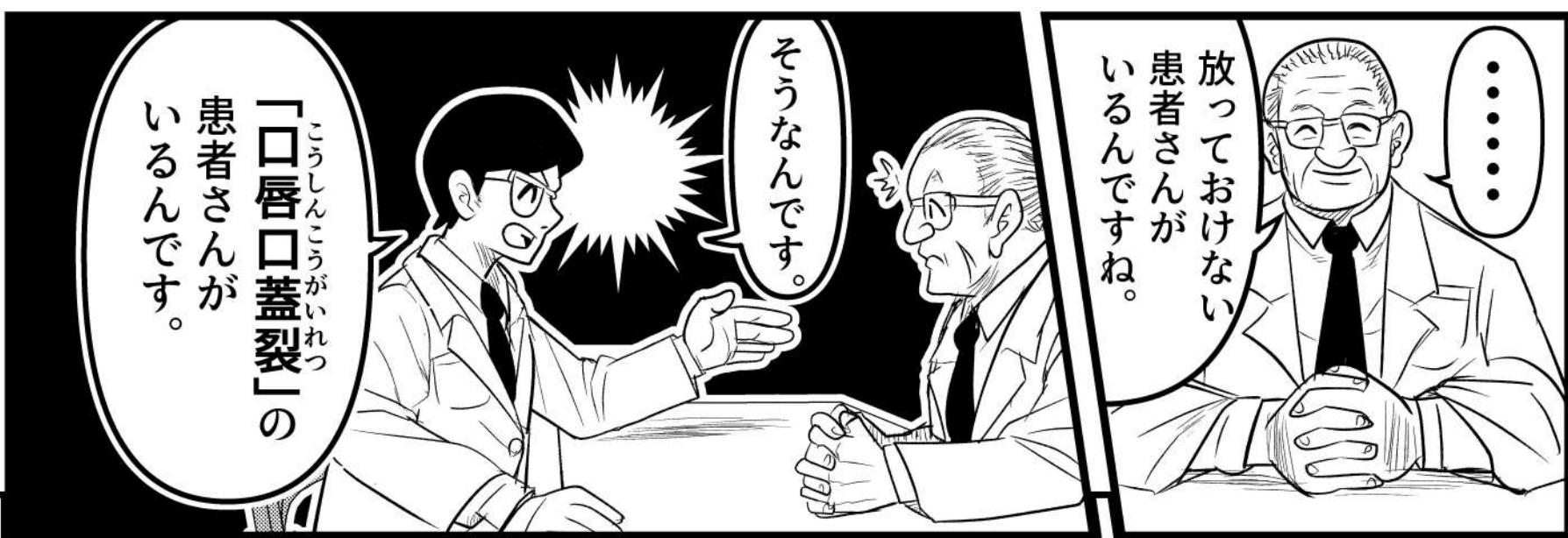






しかし今の熊本機能病院はまだ建築中。
：仮に完成しても人はまだまだ足りない状況になると予想しています。

でもこうしている間に病気や怪我で苦しむ患者さんを待たせたくないません。



「口唇口蓋裂」の

患者さんがいるんです。

なるほど、
口唇口蓋裂ですか：

それは大変だ
ほつとけない

し、う…。

そうなんです！

すぐに手術を行いたいのですが、
人手は足りない状態ですし、
口唇口蓋裂の手術は東京でしか
できないので…（1981年当時）

そこで！

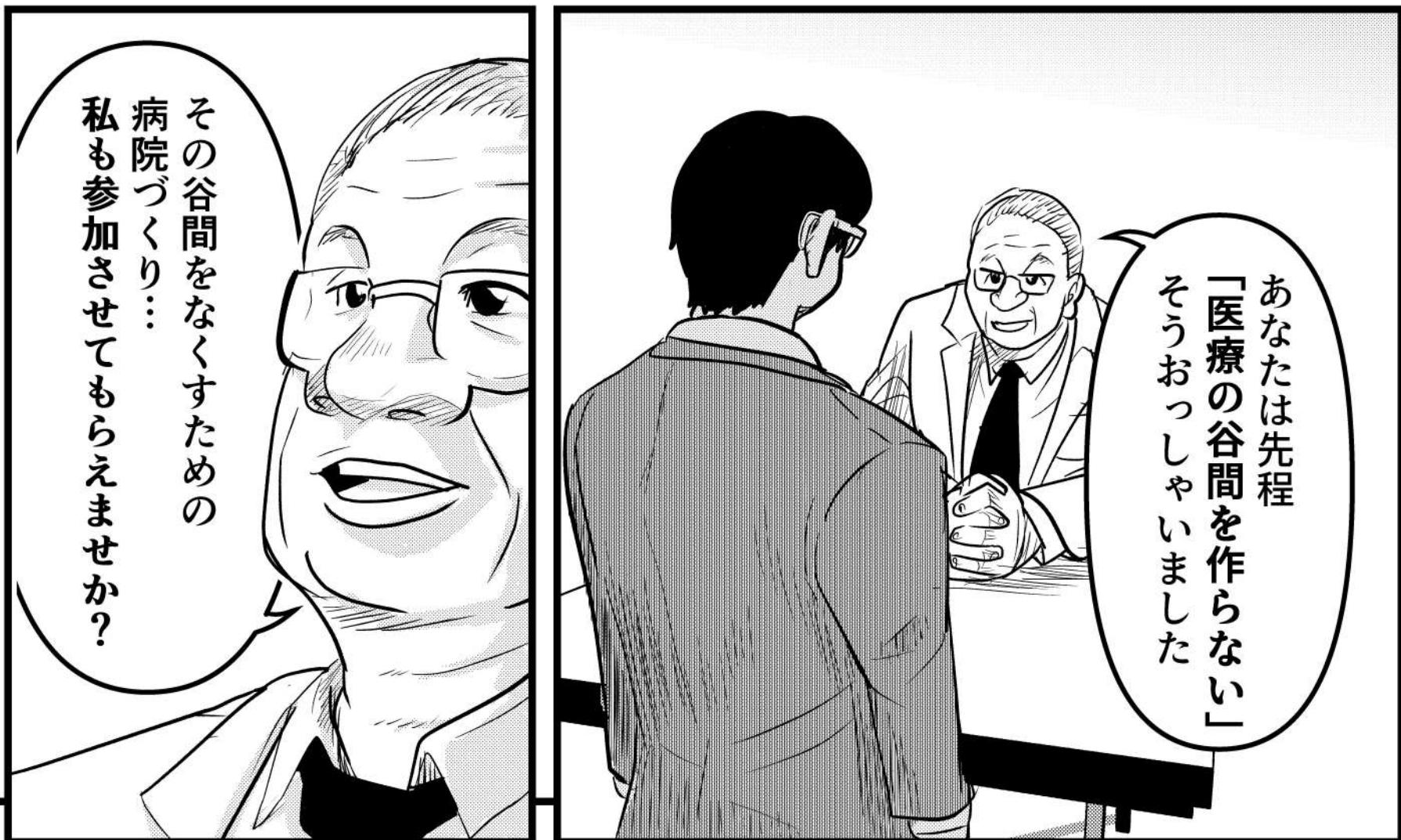
これまで口唇口蓋裂の手術を多く
こなしてこられた鬼塚教授の力を
お借りできないかと思いまして、
今回ご相談に来たのです。

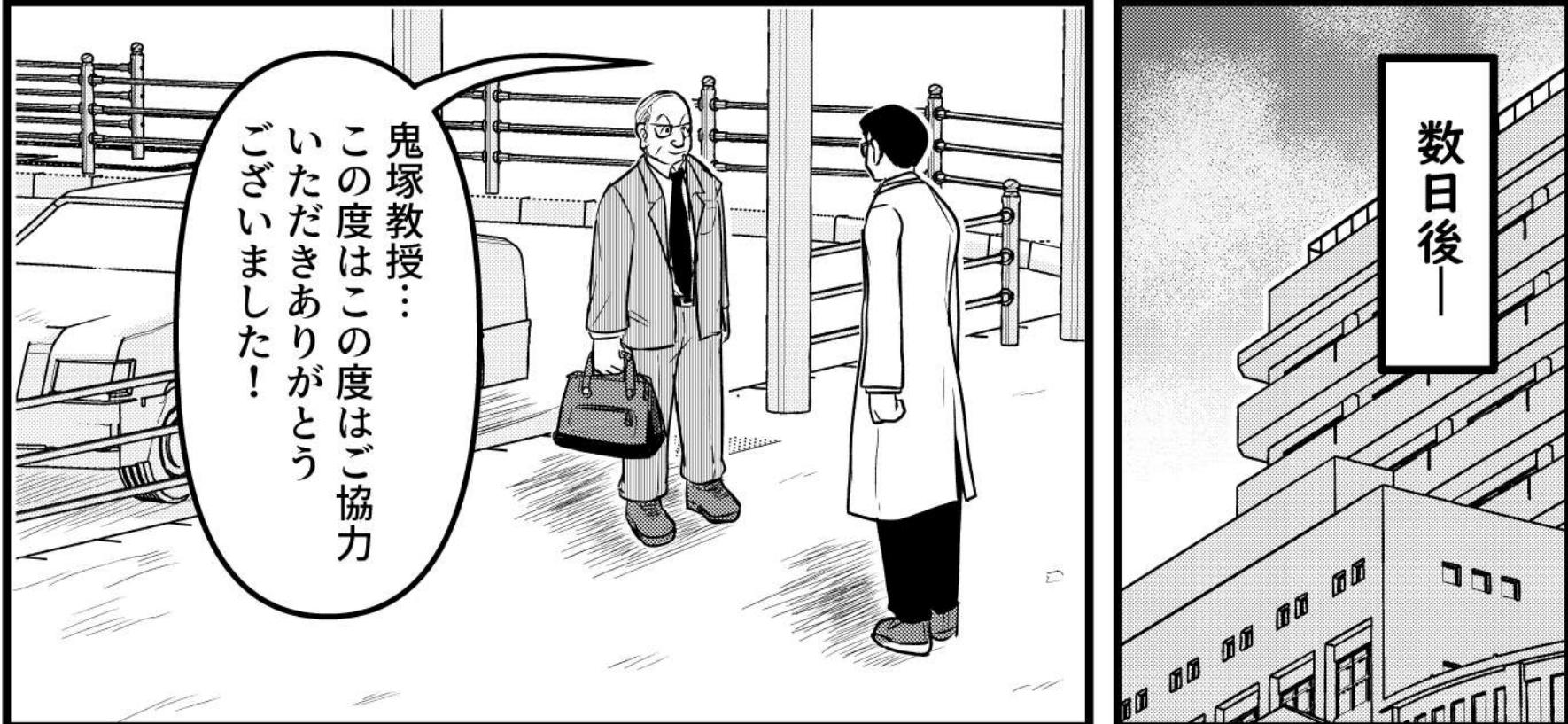
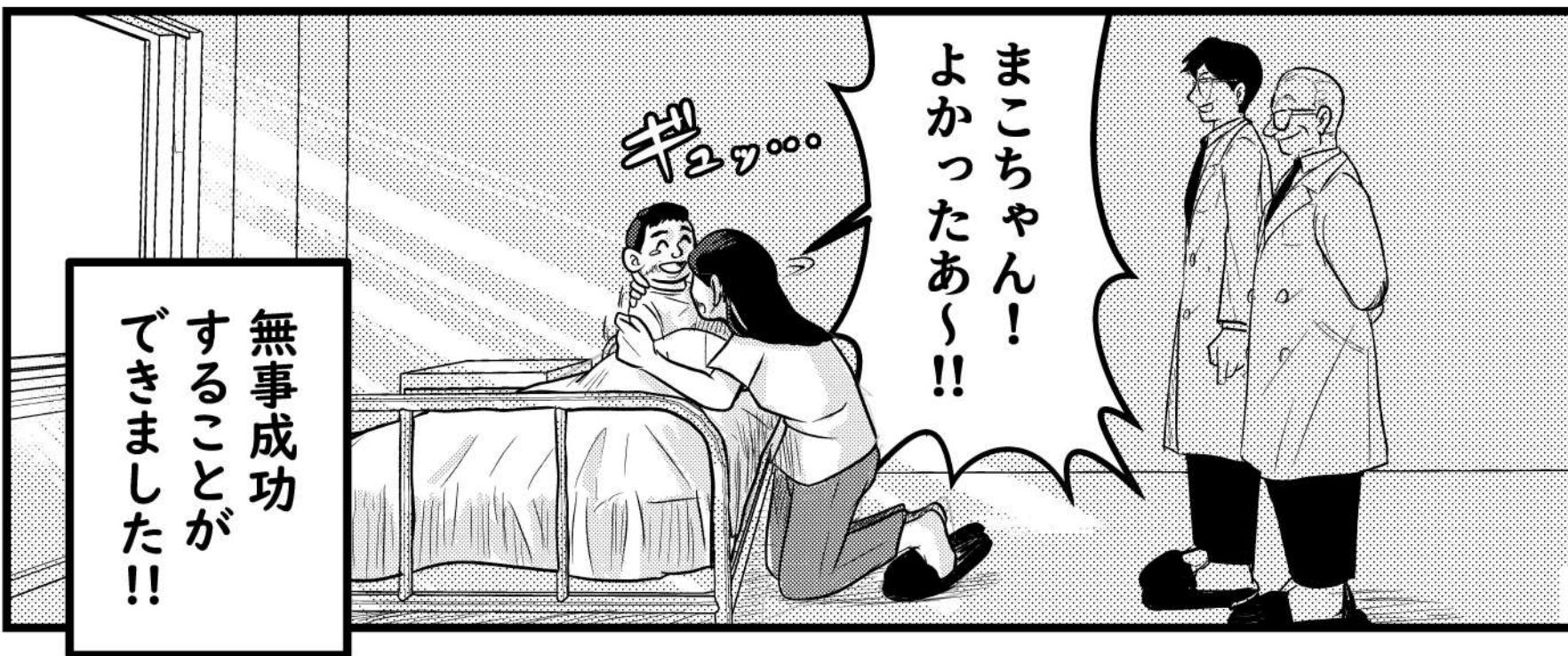
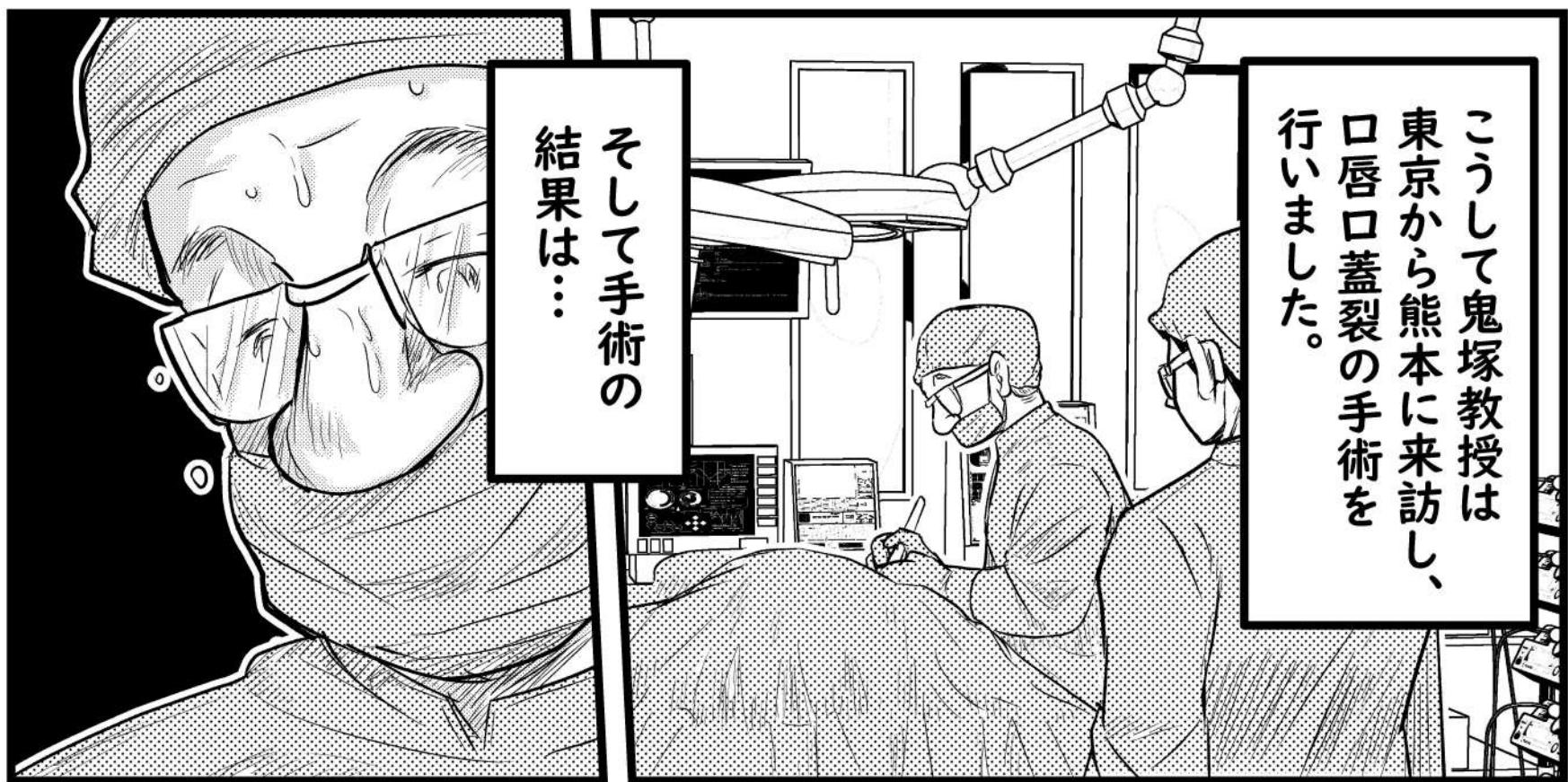
この先生：
最初は自分の病院自慢話に
来たのかと思つていきましたが、
患者さんのために
わざわざ東京の
私のところ
まで交渉しに
來たのですね。

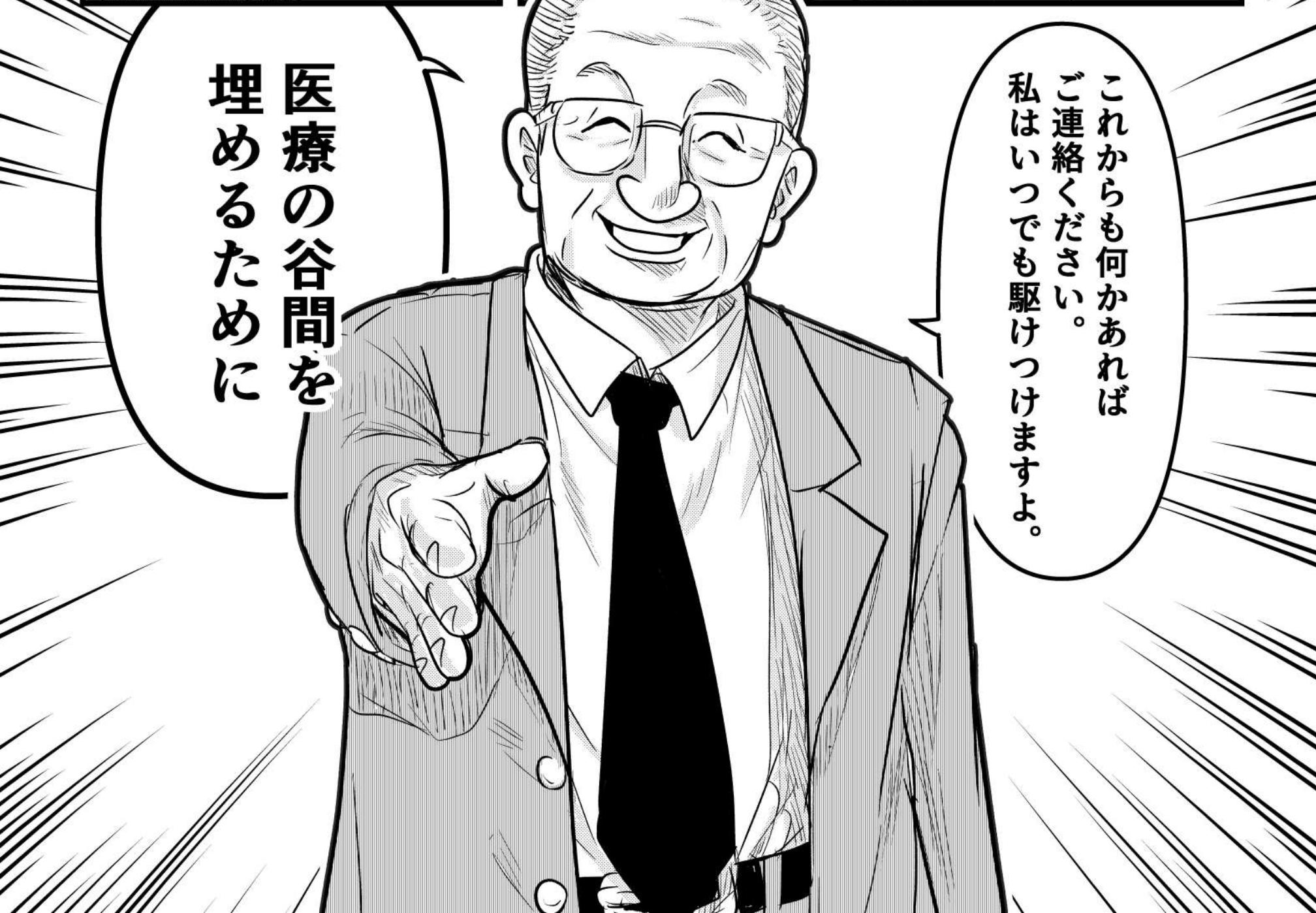
間違いない。
この先生は
“本物”だ

米満先生

目を見ても
本気度がかなり
伝わります。







鬼塚教授…

ありがとうございます！

とても心強いです。

これからも
よろしく
お願ひします！



当時全国でも口唇口蓋裂の治療ができる形成外科医の数はとても少ない状況でした。

治療には、

「耳鼻咽喉科」

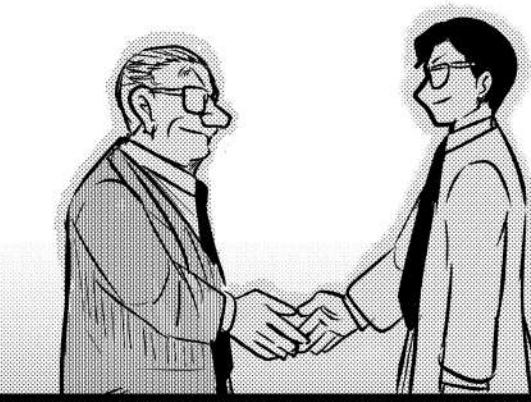
「矯正歯科」

「言語療法士」

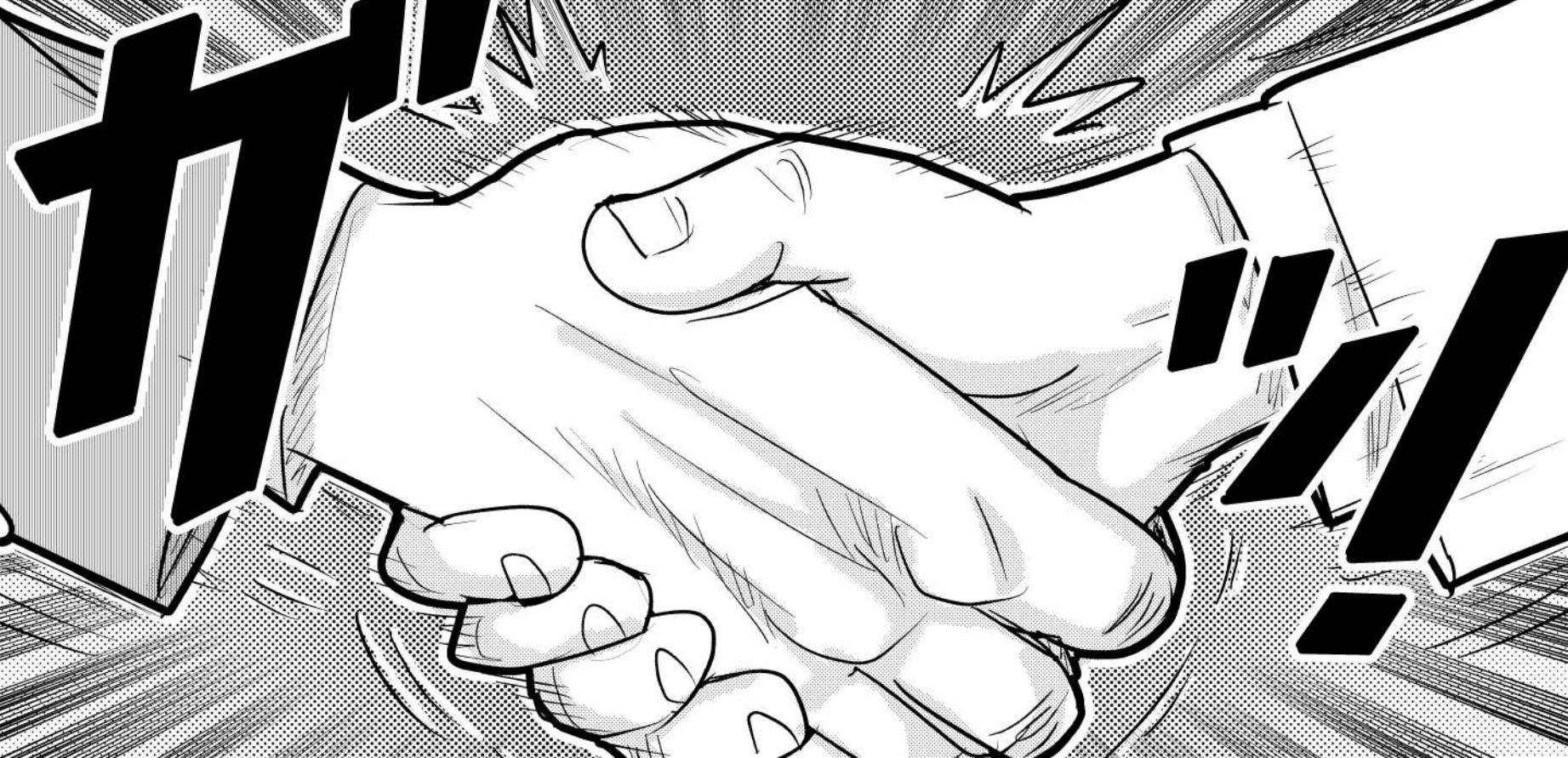
「ケースワーカー」

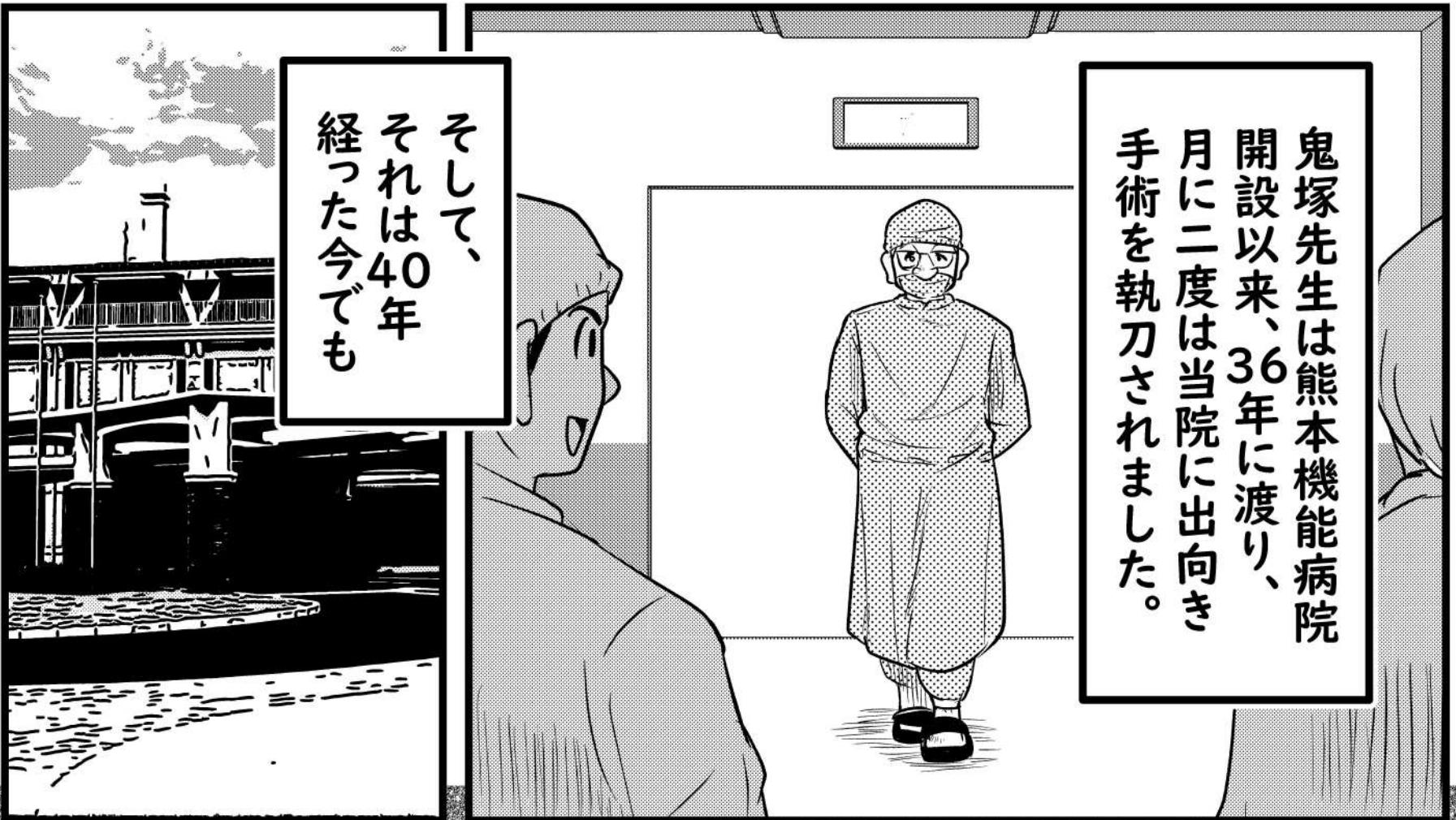
など…

いろんな職種の
サポートが必要です。



こうして
熊本機能病院と昭和大学は
協力関係となりました。







作者

ノゾエタカフミ NOZOETAKAFUMI

熊本県を中心に活動する
漫画家・イラストレーター。

魅力ある歴史を伝える「漫画」や
親しみやすい「キャラクター」
など：幅広い分野で制作活動を行って
おります。

子どもが2024年1月に
生まれ、パパとしても現在
活躍中。



【ノゾエタカフミwebサイト】

<https://www.nozotown.com/>